

## 信州大学での新入生ゼミナールと 主題別ゼミナールの実態調査

加 藤 鉦 三

### 1. はじめに

信州大学では、平成14年度カリキュラムから新カリキュラムを採用した。この改革のうち筆者が関係するもので大きなものは次の3件である。

- (1) a. 共通教育センターにコーディネーター制度を導入
- b. 「新入生ゼミナール」の必履修化
- c. 「主題別ゼミナール」の新規導入

信州大学では、いわゆる教養教育は「共通教育」の名のもとで行なわれている。かつては教養部が教養教育担当学部として存在したが、分属解体された後は、委員会方式により運営されてきた。しかし委員会方式には、(i)共通教育課程委員会を頂点とする4層構造をなし、機動性に欠ける、(ii)継続性の確保が難しい、(iii)委員が必ずしも共通教育に深く携わっているとは限らない、といった問題があり、その解消のために、教養教育に深く携わる12名の教官(学部と併任)からなるコーディネーター制度を導入した。

「新入生ゼミナール」と「主題別ゼミナール」は高校教育から大学教育への橋渡しを使命として持つ授業である。「新入生ゼミナール」は今年から始まったわけではなく既にいくつかの学部において行なわれてきたが、14年度から必履修化された。必履修とは、必修ではないが履修を強く勧める、という意味である。

一方、「主題別ゼミナール」は新規科目である。「主題別ゼミ」は、従来からあった主題別科目(概略、「人文」「社会」「自然」の3分野に相当する)をゼミナール方式で行なうという趣旨ではない。そのため、主題別ゼミナール導入に当たっては、その誤解を解くため、上記コーディネーター予定者を中心に、13年度末から2度に渡る説明会を開催するなど、趣旨の浸透に対しての努力が払われてきた。

この両科目はいずれも大学での教育の基礎作りと位置づけられている。いわば信州大学での人づくりの基礎となるべき科目である。今後信州大学はその教育の発展のために、この2つの科目を育てていかなければならず、コーディネーターはその牽引役を務めなければならない。

この2科目の発展のためには、まずは現状分析が必要である。現状を記述し、問題点があるならばそれを見つめなければならない。そうした分析の上に立って、この2科目の改善の方向を模索していかなければならない。本稿の執筆意図はこのようなものである。

## 2. 新入生ゼミナールの実態調査

新入生ゼミナールは次のように定義されている。

新入生ゼミ科目 1 題目 2 単位 1 セメスタ 週 1 コマ クラス規模 20 名

共通教育の目的の「6 大学教育における基礎的な能力の育成」の内の「大学教育を受けるための基礎能力の育成」を目的とする。

一年次前期。従来通り教官と学生の人格的な交流を活かしつつ、大学生としての自覚を促し、主体性をもって勉学する姿勢を培うなど、高校教育から大学教育への学習方法と学習態度の移行指導を含む修学指導的ウェートが強いものとして各学部の教官が自学部・学科向けとしてすべての学部で開講するものとする。ただし、全学生に履修を強く指導するが必修ではない。

平成14年度以降の共通教育カリキュラム等改革に関する報告書  
平成14年度以降の共通教育カリキュラム等改革WG より

以下、本節での観点は次のものである。

- (2) a. 授業内容
- b. クラス規模と時間割設定

### 2.1 新入生ゼミの授業内容

授業内容の実態調査には、シラバスを資料として用いた。表1はその結果である。

上の定義では、新入生ゼミは

- (3) 「学習方法と学習態度の移行指導を含む修学指導的ウェートが強いもの」

と規定されている。これは見方を変えれば、人文・社会・自然等特定の科目を教えるものであってはならない、というように解釈される。つまり、表1の「専攻に関わらない基礎能力の育成」が求められているのであり、逆に表1の「専門領域の内容が主」であることは求められていない、と解釈されるということである。

表1での記号の意味は次の通りである。

YES! : 強く当てはまる

YES : 当てあまる

NO : 当てはまらない

? : シラバスからは判断できない

表1では、人文学部と経済学部はそれぞれ1コマ分しか記述がないが、それは両学部が統一シラバスを採用しているからである。なお、人文学部では手作りの統一教科書も使用している。

表1 新入生ゼミの授業内容

14年度新入生ゼミ 授業内容表

学部	専攻に関わらない基礎能力の育成	専門領域の内容が主	学科のガイダンス
人文	YES !	NO	?
教育	YES !	NO	有
教育	YES !	NO	?
教育	YES ?	NO	?
教育	NO	YES	有
教育	YES !	NO	有
教育	YES	?	有
教育	YES	YES	?
教育	NO	YES	?
教育	NO	YES	?
教育	NO	YES	?
教育	NO ?	YES ?	有
教育	YES ?	不明	有
教育	YES	YES	有
教育	YES ?	YES	有
教育	YES !	NO	有 ?
経済	YES !	NO	?
理学	NO	YES	?
理学	YES ?	YES	有
理学	YES	YES ?	?
理学	NO	YES	?
理学	YES ?	YES ?	有
理学	YES !	NO	?
医学	NO	YES	?
医学	YES ?	YES	?
医学	NO	YES	?
医学	YES ?	YES	?
医学	YES ?	?	?
医学	NO	YES	有 ?
医学	YES !	NO	?
工学	YES	NO	?
工学	YES ?	?	有
工学	YES ?	YES	有 ?
工学	YES	NO	?
工学	YES !	NO	有
工学	YES	YES	?
農学	NO	YES	有
農学	NO	YES	有 ?
農学	NO	YES	有 ?
繊維	YES ?	YES	有 ?
繊維	YES	NO	有
繊維	YES	YES	有
繊維	YES	YES ?	有
繊維	YES !	NO	有
繊維	NO ?	YES ?	有
繊維	YES !	NO	有

表1で網掛けの部分が問題となる部分である。上の新入生ゼミの規定の骨子(3)「学習方法と学習態度の移行指導を含む修学指導的ウェイトが強いもの」から、具体的には(4)を意図しているものとここでは解釈している。

(4) 読む力、書く力、調査する力、議論する力、発表する力、批判する力、等

高校の授業では、受身的であっても本人さえ勉強していればよかったかもしれない。しかし大学の授業では、特に演習形式の授業では、黙っておとなしく座っていればよい、というものではない。大学では、教えられるのを受け入れるだけでは全く不十分であり、自分で調

べ、自分で考え、議論に参加し<sup>1)</sup>、意見を発表し、他者の意見を吟味する能力が不可欠である。(4)は、高校までの受身的な姿勢から脱却し、大学の持つ教育機能を教授するためにどうしても持たなければならない能力である。大学生活最初のセメスターでこれらの能力獲得に特化した授業を設定することは適切であると言えよう。

さて、表1で「専攻に関わらない基礎能力の育成」がNOとされている授業は、シラバスから見る限り、(4)を授業のねらいであると設定しているとは思われないものである。実際の授業の場では(4)の獲得を意図した教育が行なわれているのかもしれない。しかしシラバスは授業に関する学生との契約書であり、授業の効能書きであるという観点からすれば、(4)がシラバスの表面に現れていないことは残念であると言わなければならない。

表1にあるように、そのような授業では、専門領域に関する教育が行なわれている。新入生ゼミは学科ごとにクラス分けされているため、これはむしろ自然な発想と言えるものではある。しかし信州大学においては(5)にあるように共通教育課程において「専門基礎科目」が設けられており、かつ同じく(5)にあるように新入生ゼミは「学科の特色のないもの」と規定されていることから、新入生ゼミを専門基礎の補完として用いることは適切ではないと言わなければならない。

#### (5)〔教育課程の構成概念図〕

##### 教育課程

##### 共通教育

共通科目 学部・学科（課程）を越えた全学生の教育に必要な科目

##### 基礎教育

基礎科目 大学教育（専門教育を含む）に必要な基礎となる科目

共通基礎科目 全学生に共通に必要な基礎科目で、学部（課程）色が無い。

新入生ゼミ科目

外国語科目

情報科目

体育科目

専門基礎科目 専門教育に必要な基礎科目で学部・学科色がある（選択制）。

##### 教養教育

主題別科目 信州大学の理念・目的に沿って、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教養科目

##### 専門教育

専門科目 学部の理念目的達成のための学部または学科（課程）の独自の専門科目

課外教育 各種サークル活動・ヘルスケア講習会・スポーツ健康指導・各種講演会等

<sup>1)</sup> 人間は与えられた場での役割を意識する動物である。議論に参加するようになると、例えば演習という場において「活発な参加者」という役割にあるという自覚が生じ、今度はその自覚によって更なる積極的な参加を引き出すものと思われる。これは勉学の動機となる。大学での教育での成果をあげるには、この「場」と「役割」の持つ機能を意図的に使っていくことが重要であると考えられる。この意味で、大学生活最初のセメスターで議論への参加を習慣づけることは非常に有効であり、新入生ゼミに期待されるものは大きいものがあると言えよう。なお、これは後述の主題別ゼミにも共通する。

平成14年度以降の共通教育カリキュラム等改革に関する報告書  
平成14年度以降の共通教育カリキュラム等改革WG より

(3)にあるように、新入生ゼミは「修学指導的ウェートが強いもの」とであるとされている。この文言は、本節冒頭に引用した定義全体から見れば、学科ガイダンス等ではなく(4)を意図していることは明らかなが、しかし「修学指導」という言葉だけを見れば、また、上述のように、新入生ゼミは学科ごとにクラス分けされているという受講生の構成条件からみれば、新入生ゼミで学科ガイダンスをするという発想は自然かつ有効であり、実際表1にあるように、多くのクラスで学科ガイダンス的な活動が行なわれている。この点に関しては、むしろ新入生ゼミの性格規定の方を変えて、学科ガイダンスや友人作りをも含めた勉学以外の大学生活への馴染みの場の機能を積極的に持たせることを考えるべきだろう。学科ガイダンスが行なわれている授業では、隔地キャンパス見学<sup>2)</sup>を兼ねた合宿研修が行なわれているが、その効果は重視すべきであると思われる。また、自分を知りその上で進路を考えるということは、大学生活を充実させる大きな動機となる。この授業を自分を知る機会とすることも考えるべきであるかもしれない。

## 2.2 新入生ゼミのクラス規模と時間割設定

次にクラス規模と時間割設定を見てみよう。表2はその一覧表である。一つのセルに登録者数が複数あるものは、一つのシラバス（統一シラバス）でそれだけの数の授業が開かれていることを表している。

まず登録者数から見る。2節冒頭の定義にあるように、新入生ゼミは20人と規定されている。しかし実際には表2に見るように、適正規模を超えた（または過小な）クラスが少なからず見られる。これにはさまざまな事情があろうが、大学評価や独立行政法人化に伴う「中期目標」で教育の成果が重視されていることを考慮すれば、やはり適正規模が確保されるべきであろう。

表2で割り算の形になっているものは、シラバス上は1クラスではあるが登録人数は数クラス分、というものである。割り算に？がついているものは筆者の推測である。もしこの推測が正しいとしたら、これらのクラスは適正規模にあるかまたはそれに近いものであることになる。しかしもし実際にも1クラスであったとしたら、適正規模をはるかに超えた授業であるということになってしまう。

次に時間割設定を考える。次は15年度カリキュラム編成作業のための注意書きである。

### ③ 新入生ゼミナール

- ・全学部1年次前期に設定する。
- ・松本地区の学部は同一の時間帯（1コマ）に収めることを、隔地学部は同一の時間帯（数コマ以内）に収めることを原則とする。

（15年度実施の手引き）

<sup>2)</sup> 信州大学では、本部は松本にあり、1年次の教育は松本で行なわれているが、8学部のうち教育学部、工学部、農学部、繊維学部は松本以外の地にキャンパスがある。そのため1年次生は自分の所属する学部のキャンパスに行く機会はあまりない。

表2 新入生ゼミの受講者数と曜日・時間

## 14年度新入生ゼミ 登録者数・時間割表

学部	登録者数	曜日・時限
人文	19, 18, 17, 19, 18, 19, 17, 18, 17, 17, 18, 17	火 1
教育	29	水 4
教育	20	金 4
教育	20	月 4
教育	17	火 4
教育	4	火 2
教育	30	木 2
教育	18	金 3
教育	19	金 3
教育	18	火 4
教育	15	木 4
教育	12	火 4
教育	19, 19	水 4
教育	22	火 4
教育	10	火 4
教育	18	金 3
経済	26, 26, 26, 25, 25, 26, 25, 27, 26, 25, 25	火 2
理学	40	水 3
理学	58	水 3
理学	34	火 2
理学	34	水 3
理学	32	集中
理学	30	水 5

学部	登録者数	曜日・時限
医学	13	水 4
医学	12	月 4
医学	14	月 4
医学	13	月 4
医学	14	月 4
医学	14	月 5
医学	13	月 4
工学	86 (÷4?)	水 3
工学	95 (÷5?)	木 5
工学	102 (÷4?)	水 5
工学	62 (÷3)	金 4
工学	93(÷9)	月 3
工学	54と0	水 4
農学	22, 21, 21	火 4
農学	23, 22, 22	火 4
農学	18, 18, 18	火 4
繊維	20, 17	集中+火 4
繊維	24, 23	集中+金 3 と 4
繊維	21, 20	集中+金 4
繊維	24, 23	集中+火 4
繊維	34, 10	集中+木 4, 金 4
繊維	25, 26	集中+水 3
繊維	20, 24	集中+水 3, 水 4

学生の持つカリキュラムに関する不満のうち、「取りたい授業が必修と重なって取れない」という不満は、最も大きなものの一つである。新入生ゼミは必修ではないが必履修とされており、履修するように指導されているものである。もし新入生ゼミが一つの学部の中でさまざまな曜日・時間に設定されているとしたら、他の授業の時間割組みがそれだけ困難になる。そのような事態を避けるため、上の注意が共通教育センターによって出されることとなった。しかしこのような指導は14年度カリキュラム編成時にはなされなかった。表2の網掛け部分

は、上の注意書きの精神に沿っていない時間割設定になっているものである。このような事態は15年度は避けなければならない。そのため、平成14年11月に行なわれたFD会「新入生ゼミの会」（共通教育センター主催）で、各学部の代表者にこの注意書きに対する注意の喚起を呼びかけた。

### 3. 主題別ゼミナール

主題別ゼミナールは次のように定義づけられている。

主題別科目・ゼミ 1 題目 2 単位 1 セメスタ 週 1 コマ クラス規模20名

20人クラス 総合大学であり、1年次に全学部の学生が松本キャンパスで学ぶことを活かして、さまざまなタイプの学生に触れてさまざまな物の見方を知る機会としても複数学部生混合で授業を行うようにする。したがって、20名を越えた場合の受講制限は、数の多い学部生から行うなど同一学部生に偏らないように措置をとる。教官の個性に応じて特徴あるゼミとする。

学問と社会との関係に関して事例的に研究を行い、学生が自分の知識や人生を社会との関係で位置付けてみる機会とする。その際、討論やプレゼンテーション等を積極的に取り入れたりすることを通じて、物事の多面的な理解と総合的な洞察力を涵養（かんよう）する方向で、教育内容・方法の改善を図る必要があるとともに、高等教育を受けた者としての基本的な学問知識を、理解や洞察の基礎として具体的に獲得する。

また、文化創造活動について事例的に研究を行い、人生や社会にとっての意義を考察する機会とする。その際、実践、実技、実習、討論、プレゼンテーション等を積極的に取り入れたりすることを通じて、人間についての多面的な理解と総合的な洞察力を涵養（かんよう）する方向で、教育内容・方法の改善を図る。

なお、小さな教室が必要になるので、在松学部の教官のゼミは、所属学部のゼミ室を用立てる。また、プレゼンテーション用機器を含めた情報機器の充実のために特別な予算措置を講じたり、文化創造活動についての環境を整えたりする必要がある。

平成14年度以降の共通教育カリキュラム等改革に関する報告書

平成14年度以降の共通教育カリキュラム等改革WG より

以下で(5)について報告する。

- (5) a. 授業内容
- b. 時間割設定

#### 3.1 主題別ゼミの授業内容

上の定義からは、主題別ゼミでは(6)が授業内容の中心であることが求められていると考えられる。

- (6) 「受講生が事例的な研究を行なう。」

「討論やプレゼンテーションを通して、多面的な理解力と洞察力を涵養する。」

主題別ゼミは14年度から導入された新設科目である。13年度までにも主題別科目は講義だけではなく演習形式の授業も設けられていた。しかしそこでは上のような定義づけはなされておらず、演習形式の主題別科目は、文字通り主題別科目を演習形式で行なう授業であるというように理解されていた。よって、上の主題別ゼミの定義づけが行なわれた時に、主題別ゼミは従来の演習形式の主題別科目ではないということを周知させる必要は認識されていた。1節で述べたように2度に渡るFD会が開催され、新設科目としての主題別ゼミの趣旨(6)の浸透が図られた。

表3と表4は、それぞれシラバスから見た前期と後期の主題別科目の授業内容の一覧表である。

表3 主題別科目の授業内容 前期

主題群	科目名	担当教官	受講者数	授業形態	受講生が事例的な研究をする	討論・プレゼンテーション等
A	宇宙船地球号	3名のリレー	22	ゼミ	○	○
	現代の社会	単独	21	ゼミ	×	○
		2班で2名	23	ゼミ	○	×
		単独	22	ゼミ	○	○
		3名のリレー	32	講義+ゼミ?	×	○
		単独	19	ゼミ	×	○
	学問・古典論	単独	10	ゼミ	○	○
		単独	18	?	×	×
B	世界の言語・文化の諸相	単独	7	ゼミ	×	×
		単独	12	ゼミ	×	×
		単独	24	ゼミ	×	×
		単独	21	ゼミ	×	○
	日本の言語・文化の諸相	単独	23	ゼミ	×	○
		単独	9	ゼミ	×	○
	芸術とスポーツの諸相	単独	18	フィールドワーク+ゼミ	×	×
		単独	26	実技+ゼミ	×	×
	思想と歴史の諸相	単独	22	ゼミ	×	×
		単独	9	ゼミ	×	×
		単独	12	ゼミ	×	×
		単独	6	ゼミ+合宿	○	○
	物質の構造と材料の科学	単独	21	ゼミ	×	×
		単独	10	ゼミ	×	×
		単独	134	ゼミ	○	○



C	生命のしくみ	2名	22	合宿	×	×
		2名	17	合宿	×	×
		2名	16	合宿	×	×
		4－5名	39	合宿	×	×
		4－5名	18	合宿	×	×
	自然のしくみ	単独	20	ゼミ	○	○
		単独	23	ゼミ	○	○
		単独	13	ゼミ＋野外調査	標本作成	×
		7名	25	合宿	×	×
		単独	19	ゼミ	×	×
		不明	11	合宿	×	×
D	数理の世界	単独	16	ゼミ	×	×

表4 主題別科目の授業内容 後期

主題群	科目名	担当教官	受講者数	授業形態	受講生が事例的な研究をする	討論・プレゼンテーション等
A	現代の社会	単独	7	ゼミ	×	○
		単独	15	ゼミ	×	○
		単独	10	ゼミ	×	○
		単独	11	ゼミ	実験	×
		単独	10	ゼミ	○	○
		単独	3	ゼミ	○	○
		単独	29	フィールドワーク	×	×
		単独	8	ゼミ	×	○
		単独	22	ゼミ	○	○
		オムニバス	17	講義？	毎回レポート	×
		単独	10	ゼミ	実験	○
		単独	0	ゼミ	実験	○
	学問・古典論	単独	10	ゼミ	○	○
		単独	26	ゼミ	×	○
		単独	2	ゼミ	○	×
		単独	20	ゼミ	○	○
		単独	1	ゼミ	×	×
		単独	4	ゼミ	×	×
		単独	0	ゼミ	×	×
		単独	8	ゼミ	×	×

B	世界の言語・文化の諸相	単独	4	ゼミ	○	○
		単独	25	ゼミ	×?	○
		単独	8	ゼミ	○	○
		単独	7	ゼミ	×	×?
		単独	5	ゼミ	○	○
	日本の言語・文化の諸相	単独	17	ゼミ	×?	×?
		単独	8	ゼミ	×	×?
		単独	12	ゼミ	書く	×
		単独	12	ゼミ	○	×
		単独	5	ゼミ	×?	×?
		単独	20	ゼミ	×?	×?
		単独	24	ゼミ	×?	×?
		単独	5	ゼミ	○	○
	芸術とスポーツの諸相	単独	19	ゼミ+合宿	演奏	演奏
		単独	16	ゼミ	○	○
		単独	2	ゼミ	×?	○
		単独	20	ゼミ+フィールドワーク	×?	○
	思想と歴史の諸相	単独	8	ゼミ	×	×
		単独	17	ゼミ	×	×
		単独	14	ゼミ	×	×
		単独	11	ゼミ	×	○
		単独	6	ゼミ	×?	×?
		単独	26	ゼミ	毎回レポート	○
		単独	4	ゼミ	×	×?
		単独	9	ゼミ	×?	○
		単独	9	ゼミ	×	×?
		単独	19	ゼミ	×?	○
		単独	3	ゼミ	×	×?
		単独	2	ゼミ	×	×?
		単独	8	ゼミ	○	×
		単独	18	ゼミ	×?	○
C	物質の構造と材料の科学	単独	11	ゼミ	×	×?
		単独	6	ゼミ	×	×?
		単独	11	ゼミ	実験	×
		単独	12	ゼミ	実験	×
		単独	14	ゼミ	実習	○
	生命のしくみ	2名	18	ゼミ	×	×

	自然のしくみ	単独?	6	ゼミ+合宿	実習	×?
		3名	14	ゼミ	×	○
D	経済と社会	単独	6	ゼミ	○	○
		単独	12	ゼミ	×?	○
		単独	3	講義	×	×
		単独	11	ゼミ	×	×
		単独	9	ゼミ	○	○
	法と政策	単独	23	ゼミ	×	×?
		単独	29	ゼミ+裁判傍聴	○	○
		単独	22	ゼミ	○	○
		単独	8	ゼミ	○	○
		単独	3	ゼミ	×?	×?
E	数理の世界	単独	8	ゼミ	×?	○
	現代技術と情報科学	単独	59	ゼミ	実習+コンテスト	ホームページ作成

表3, 表4で○はそれぞれ「受講生が事例的な研究を行なう」「討論・プレゼンテーション等」に関する記述がシラバスに見られるもの, ×は見られないもの, ×?はありそうな記述ではあるが明確ではないもの, を表している。これはもちろんシラバスを見る限りにおいて, ということであり, 筆者が実際に授業を見学したり担当教官・学生にインタビューして調査した結果ではない。よって, 表3, 表4はあくまで全体の傾向を知るための目安にしかならない。また筆者の意図は, この結果をもとにして担当教官を糾弾する, というものからは程遠い。むしろ, このような残念な傾向が見られることは共通教育センターの責任であると考えられている。

さて, 表3, 表4で見る限り, 新設された主題別ゼミの趣旨(6)と現実の間には相当の乖離があると言わなければならないだろう。

#### (6) 「受講生が事例的な研究を行なう。」

「討論やプレゼンテーションを通して, 多面的な理解力と洞察力を涵養する。」

これは共通教育センターの大きな課題であると筆者は認識している。上述したように, 新入生ゼミはFD会を開催して学部代表にその趣旨の再確認をしたが, 主題別ゼミに関しても同様のFD会を開催するべきであろう。また, 主題別ゼミに関しては, おそらくその趣旨(6)の浸透を図るだけでは不十分であり, その趣旨を現実の授業の中で実施するためにはどのような授業の仕方が有効であるのか, どのような教材が考えられるのか, といったような実地的なノウハウを確立しそれを共有するというステップが不可欠であるように思われる。

### 3.2 主題別ゼミのクラス規模と時間割設定

次に主題別ゼミのクラスサイズと時間割設定を見る。表5、表6はそれぞれについての前期の授業と後期の授業の一覧表である。(表5、表6は巻末)

主題別ゼミは、専攻の違う他学部生と議論する場という性格を持つ演習授業である。3節冒頭に示した主題別ゼミの定義から、関係する部分を下に再掲する。

総合大学であり、I年次に全学部の学生が松本キャンパスで学ぶことを活かして、さまざまなタイプの学生に触れてさまざまな物の見方を知る機会としても複数学部生混合で授業を行うようにする。したがって、20名を越えた場合の受講制限は、数の多い学部生から行うなど同一学部生に偏らないように措置をとる。

表5、表6では学部別の分布を示した。この点においては、表6の一番下の授業を除けば、特に学部が偏りすぎている授業はなく、問題ないといえよう。なお、表6の一番下の授業は、コンピューターを用いての精密工作を行なう授業であるという特殊事情によって工学部の学生が多くなっているものと思われる。

このように受講者数の学部分布は問題ないのであるが、受講者数そのものについてはかなり問題がある。それは次の3点である。

- (7) a. 極端に受講者数の多い授業と極端に少ない授業がある
- b. 前期と後期の受講者数の違い

まず(7a)の問題から見てみよう。主題別ゼミの適正数は3節冒頭の定義にあるように20名とされている。しかし実際には次のように極端なクラスが存在する。

- (8) a. 134,39,32 前期(表5)
- b. 59 後期(表6)
- c. 0,0,1,2,2,2,... 後期(表6)

この理由は明らかではない。極端に多いものについては、受講制限の徹底という消極的な対応を考えるよりは、それだけ需要があると考え、同種の授業を複数開講するといった対応を考える方が生産的であり、また学生本位の大学を志向した対応であると言えるだろう。一方、極端に少ないクラスについてもまたその対応を考えなければならないだろう。これについては担当教官だけが考えればよいという問題ではなく、大学全体でとりわけ共通教育センターで考えていかなければならない問題であると認識している。

(8c)については、開講曜日・時間がその理由のうち大きな部分を占めていると考えられるかもしれない。そこで主題別ゼミの受講者数について、その分布を曜日・時間という観点から見てみよう。表7、表8はそれぞれ前期、後期の一覧表である。

表7 主題別ゼミ 曜日・時間分布表 前期

曜日	時限	平均	受講者数 (1セル1授業)							
月	1	23.0	23							
	2	22.0	22							
	3									
	4	10.0	10							
	5	12.0	12							
火	1									
	2	21.0	26	16						
	3	19.5	18	21						
	4	10.0	10							
	5	9.0	9							
水	1									
	2	14.0	21	7						
	3	18.3	23	22	19	9				
	4									
	5									
木	1	24.0	24							
	2	18.3	12	20	23					
	3									
	4	77.5	21	134						
	5	15.3	18	22	6					
金	1									
	2									
	3	32.0	32							
	4									
	5	13.0	13							
集中		20.9	22	17	16	39	18	25	19	11

表8 主題別ゼミ 曜日・時間分布表 後期

曜日	時限	平均	受講者数 (1セル1授業)							
月	1	13.5	10	17						
	2	8.0	8							
	3	8.2	7	11	5	14	9	3		
	4	7.7	10	2	11					
	5	6.0	15	3	0					

火	1	19.0	19								
	2	12.0	12								
	3	16.5	10	23							
	4	12.3	7	6	14	22					
	5	3.0	3								
水	1	10.3	4	18	9						
	2	10.1	10	26	2	1	9	11	12		
	3	8.3	5	8	12						
	4	16.0	16								
	5	22.0	22								
木	1	10.3	8	24	6	3					
	2	12.4	20	4	8	17	20	11	6	18	8
	3	9.7	17	4	5	8	12	14	8		
	4	25.5	25	26							
	5	14.5	19	20	8	11					
金	1	6.0	6								
	2	15.5	2	29							
	3										
	4	29.3	29	0	59						
	5										

表8に見るように、受講者数0～2といったクラスは特定の曜日・時間、例えば月曜1限に特徴的に見られるという傾向はない。それどころか、例えば金曜4限には後期最小のクラスと最大のクラスが同居している。よって、受講生数を左右する要因は、やはり第一義的には授業内容であると考えざるを得ないだろう。

なお、表6、表7の曜日・時間ごとの平均値は、データ数が少なすぎて参考にはならない。しかし曜日・時間と受講者数との関係は興味深い問題であるので、少し横道にそれるが、主題別講義についてもその分布を見てみよう。表9と表10である。

表9 主題別講義 曜日・時間分布表 前期

曜日	時限	平均	受講者数（1セル1授業）								
月	1	89.3	45	42	136	134					
	2	144.0	81	110	242						
	3	135.0	63	206							
	4	200.0	242	157							
	5	35.5	22	41	25	54					
	1	106.0	82	130							

火	2	49.0	6	66	43	81						
	3	220.0	220									
	4	175.0	163	100	261							
	5	28.3	19	2	64							
水	1	53.9	110	100	52	37	9	5	30	55	87	
	2	98.0	125	89	95	83						
	3	53.5	48	59								
	4	63.0	102	40	66	44						
	5											
木	1	103.0	60	126	142	82						
	2	54.6	167	78	36	5	101	11	41	16	36	
	3	67.6	129	71	22	28	85	36	66	82	81	76
	4	151.0	64	46	366	129						
	5	76.3	97	68	64							
金	1	139.0	56	96	82	321						
	2	57.9	85	8	18	143	53	81	21	78	45	47
	3	77.8	74	147	73	17						
	4	71.5	46	56	43	63	119	112	16	117		
	5	37.0	37									
集中		105.0	73	136								

表10 主題別講義 曜日・時間分布表 後期

曜日	時限	平均	受講者数（1セル1授業）									
月	1	46.0	46									
	2	67.3	44	18	64	79	57	142				
	3	88.3	82	42	68	10	31	327	147	58	30	
	4	106.0	57	101	79	430	14	86	40	40		
	5	67.3	43	97	62							
火	1	49.0	31	67								
	2	81.6	115	32	16	28	253	76	104	29		
	3	113.0	89	260	237	23	24	42				
	4	56.7	13	9	22	33	85	94	50	121	83	
	5	80.0	10	134	17	159						
水	1	83.0	13	153								
	2	94.0	96	8	204	55	107					
	3	77.6	42	11	41	67	63	211	108			

	4	97.0	144	163	48	91	39				
	5	68.5	15	122							
木	1	65.0	16	115	64						
	2	66.1	46	16	37	25	16	149	174		
	3	93.8	106	108	111	172	13	130	110	41	53
	4	82.0	111	28	107						
	5	104.0	124	106	82						
金	1	85.0	21	118	158	96	32				
	2	104.0	366	23	51	59	109	33	88		
	3	75.0	52	7	193	57	137	74	5		
	4	56.1	20	139	52	85	88	38	3	15	65
	5	166.0	42	290							
集中		155.0	141	143	107	97	286				

表7～表10は、それぞれの表はデータ数は少ないが、全部を合わせて考えるとある程度のことは言えるだろう。（ただし主題別ゼミと主題別講義はそれぞれの適正数が20、100とサイズが違うため、全部を足して平均を取るのとは意味がない。）それは、曜日・時間と受講者数との間には、強い相関関係は見られない、ということである。

次に（7b）の問題を考えよう。

- (7) a. 極端に受講者数の多い授業と極端に少ない授業がある  
b. 前期と後期の受講者数の違い

次の引用にあるように、主題別ゼミは原則として前期に開講することになっている。これは15年度版であるが、14年度カリキュラム編成時に出された14年度版も同文同内容であった。

⑦ 主題別科目（ゼミナール・講義）

- ・ゼミナールは、後期に設定することを原則とする。
- ・講義は、各群において、前期・後期及び時間帯にバランス良く設定する。
- ・日本国憲法関係の題目は、教職関係学部（人文・理・工・繊維・農）学生の受講に配慮のうえ開講する。

平成15年度共通教育実施の手引き（共通教育センター）より

しかし実際には、本節でこれまで見てきたように、前期にも相当数の授業が開講されている。前期開講の授業はこの指示に従っていないことになるのだが、ここではそれを批判するつもりはない。ここで問題にしたいのは、純粋に受講生数の問題だけである。(9)は前期と後期の主題別ゼミの授業数と平均受講者数である。

- (9) a. 前期主題別ゼミ 授業数 34 全受講者数 760



平均受講者数 18.41 (134という例外的な数値を除外した平均値。除外前は21.71)

b. 後期主題別ゼミ 授業数 70 全受講者数 861

平均受講者数 11.46 (59という例外的な数値を除外した平均値。除外前は12.13)

c. 前期+後期全受講者数 1621 1年次生総数 約2100

まず指摘したいのは、(9c)に見るように1年次生総数と前期+後期の全受講者数との差が約500もあることである。下は『共通教育履修案内』からの引用である。そこにあるように、主題別ゼミを必ず一つは履修するように、と呼びかけているにも関わらず、ほとんど1/4の1年次生が履修していない点は大きな問題であると言わなければならない。対策が必要である。

## ② 講義とゼミナール

主題別科目の授業形態には講義とゼミナールがあります。どちらを履修してもよく、単位数はどちらも2単位です。

ゼミナールは、受講生20名のクラス規模で開講します。総合大学であり、1年次に全学部の学生が松本キャンパスで学ぶことを活かして、さまざまなタイプの学生に触れてさまざまな物の見方を知る機会とするために複数学部の学生を混合で授業を実施しますので、受講生相互や教官との交流も期待できます。

全学生が履修できるように多くのコマが開設されていますので、必ず一つは履修するように履修計画をたてましょう。

ただし、受講希望者が20名を超えた場合は、受講制限を行いますのでご承知ください。

『共通教育履修案内2002』p.14

(7b)の問題に戻る。前期の受講者数の平均が18.41名、後期の受講者数の平均が11.46名というのは、余りに差がありすぎる。この差が生じる原因は、学生が前期に急いで履修するという傾向があることによるのかもしれないが、よく分からない。どのような原因があるにせよ、この問題は解消しなければならない。後期に70クラス開講して適性数から言えば1400名の受講生を集めなければならないところを861名しか受講していないのであるから、教育資源の投入に見合う効果を出していないからである。

この問題の解決法はいくつか考えられる。(i)原則どおり後期にだけ開講する、(ii)逆に前期と後期の開講数を同じにする、(iii)新入生ゼミと同様に必履修にする、などの対処法が考えられる。(iii)が必要であることは明らかなように思われるが、(i)と(ii)のどちらを選択するかは難しい問題である。課題としたい。また、単に主題別ゼミを必履修にすればすむ問題でもなさそうである。主題別ゼミの趣旨が浸透していない状態で(iii)を実施すれば、学生から見れば必履修化された理由を納得できないかもしれない。よって、優先すべき課題は、まず主題別ゼミの全授業を主題別ゼミでなければできない内容を持つ授業にすることであろう。そのためには担当教官の理解を得なければならない。共通教育センターの課題は、まず主題別ゼミの趣旨をより明確にし、その効果を説き、更にその趣旨を活かすのに効果の高い教授法を確立

することであろう。授業の効果と教授法が確立すれば、これまで見てきた主題別ゼミのさまざまな問題は自ずから消えていくものであるように思われる。

#### 4. まとめ

以上、新入生ゼミと主題別ゼミのさまざまな問題を見てきた。主題別ゼミは新入生ゼミとならんで信州大学の共通教育の特長とならねばならない。しかしこれまで見てきたように、両者ともその趣旨の理解が教官・学生に浸透しているという状態からは程遠い。まずは両者のねらいを明確にし、そのねらいを授業の場で実現できるような教授法を確立することが強く求められているように思われる。

表5 主題別ゼミの受講者数と曜日・時間 前期

主題群	科目名	曜日・時限	合計	年次	人文学部	教育学部	経済学部	理学部	医学部	工学部	農学部	繊維学部
A	宇宙船地球号	月2	22	1年		2	1	5	1	5	4	3
				高	1							
	現代の社会	水2	21	1年	1	8	4	2		3	1	1
				高					1			
		水3	23	1年		4		1			2	13
				高	1			1	1			
		水3	22	1年		3		1	3			14
				高								
		金3	32	1年	1	5	2			7		17
				高								
		水3	19	1年	2	3	1		3		7	2
				高				1				
	学問・古典論	月4	10	1年	1	4			1	2	1	
				高								
		火3	18	1年	2	1	4			7	1	
				高			1	1	1			
	世界の言語・文化の諸相	水2	7	1年		3		1				
				高	1			1	1			
		木2	12	1年	6	2		1			1	1
				高				1				
		木1	24	1年	5	8		1	2	3	2	
				高	2			1				
				1年	3	3	7		1	2	1	2

B		木 4	21	高	2							
	日本の言語・文化の諸相	月 1	23	1 年	6	8		1			5	
				高	2				1			
	芸術とスポーツの諸相	水 3	9	1 年		2		1	1		1	
				高	2	1	1					
		木 5	18	1 年	3	2	4			2	4	1
				高				2				
		火 2	26	1 年	2	9		2		4	2	4
				高				2		1		
	思想と歴史の諸相	木 5	22	1 年	6	1	1	3		3	7	
				高				1				
		火 5	9	1 年	1		1		1		2	1
				高						2		
		月 5	12	1 年	1		2		1	1	3	3
				高					1			
		木 5	6	1 年	2				1	1	1	
				高	1							
C	物質の構造と材料の科学	火 3	21	1 年		1		2		7	1	9
				高				1				
		火 4	10	1 年				2	1	3		3
				高				1				
		木 4	134	1 年	1	18	19	14	3	43	3	24
				高	4				2			3
	生命のしくみ	集中	22	1 年	2	4		2	1		4	5
				高				1		1		2
		集中	17	1 年	4	1		1			8	2
				高						1		
		集中	16	1 年		1					8	4
				高						2	1	
		集中	39	1 年		2	1	1		1	10	4
				高		3	1	1	1	14		
		集中	18	1 年		5		1		1	7	1
				高						3		
		木 2	20	1 年	3			4	2	3	4	4
				高								
		木 2	23	1 年		1		1		14		7
				高								

	自然のしくみ	金 5	13	1 年				1		1	10	1
				高								
		集中	25	1 年	2		2	1	2	3	8	3
				高				2	1			1
		集中	19	1 年		1		2		2	6	1
				高		1	1	3		1	1	
		集中	11	1 年	2						4	1
				高				1		2		1
	E 数理の世界	火 2	16	1 年		2		7		4		
				高				2	1			

表 6 主題別ゼミの受講者数と曜日・時間 後期

主題群	科目名	曜日・時限	合計	年次	人文学部	教育学部	経済学部	理学部	医学部	工学部	農学部	繊維学部
A	現代の社会	月 3	7	1 年	1	1	2			2		
				高			1					
		月 5	15	1 年	3	2	3			2		
				高				2	3			
		水 2	10	1 年		6	1		1		1	1
				高								
		月 3	11	1 年			2		1	4		3
				高				1				
		月 1	10	1 年	1	1		1		2	2	1
				高	1						1	
		月 5	3	1 年	2							
				高	1							
		金 4	29	1 年	7	5	1	2		10	1	3
				高								
		月 2	8	1 年			5	1		2		
				高								
		水 5	22	1 年	2	3	2	1	1	8	2	1
				高	2							
		木 3	17	1 年	1	3	2			1	5	1
				高					4			
		火 3	10	1 年		2				3		5
				高								
				1 年								

		金 4	0	高								
				1 年		1		3	2	2	1	1
		月 4	10	高								
				1 年		18	2			2	1	
		水 2	26	高	3							
				1 年								
		水 2	2	高					2			
				1 年	2	2	2	3		5	5	
		木 2	20	高	1							
				1 年								
		水 2	1	高	1							
				1 年	3			1				
		木 2	4	高								
				1 年								
		月 5	0	高								
				1 年	5					1	1	
		木 1	8	高	1							
				1 年			3					
		木 3	4	高	1							
				1 年	5	8	2			2		3
		木 4	25	高			2	2	1			
				1 年	3		1			2	1	
		木 2	8	高	1							
				1 年	1		3		1	1		
		火 4	7	高				1				
				1 年	2			2				
		木 3	5	高	1							
				1 年	3	3	4			1	4	2
		木 2	17	高								
				1 年	2	1	1				2	2
		木 3	8	高								
				1 年	8			2				1
		火 2	12	高			1					
				1 年	1	5	3	1		1	1	
		木 3	12	高								
				1 年	1	1		1		2		
		水 3	5	高								

B	芸術とスポーツの諸相	木2	20	1年	4		2	2		2	8	1
				高	1							
		木1	24	1年	4	4	1	3		2	3	4
				高	3							
		月3	5	1年						4		
				高			1					
		木5	19	1年	4	6	1	2			3	1
				高	1		1					
		水4	16	1年	2		5		1	2		6
				高								
	思想と歴史の諸相	月4	2	1年				1			1	
				高								
		木5	20	1年	2	3	4			1	3	1
				高	2	4						
		木5	8	1年	3	1		1			2	
				高				1				
		月1	17	1年	3			3		3	5	1
				高						1		
		月3	14	1年			1	2	1	2	4	2
				高	1			1				
		木2	11	1年	5	2	1				1	1
				高	1							
		木1	6	1年	3	1						1
				高			1					
		木4	26	1年	3	2	1	1	1	7		2
				高	3			4	2			
		水1	4	1年	4							
				高								
		水2	9	1年		3	2	2	1		1	
				高								
		月3	9	1年	1	1	2				4	1
				高								
		火1	19	1年	5	3	3			5	2	
				高				1				
		木1	3	1年	1						1	
				高	1							
				1年			1					

C		金 2	2	高			1					
				1 年			1	2			4	1
		水 3	8	高								
				1 年	3	3		2		1	3	5
	物質の構造と材料の科学	水 1	18	高	1							
				1 年				5	1	3	2	
		水 2	11	高								
				1 年				2				4
		木 2	6	高								
				1 年		1	1		3	4		2
		月 4	11	高								
				1 年						5		7
	生命～	水 3	12	高								
				1 年		3		2		3	2	4
	自然のしくみ	木 3	14	高								
				1 年				4		1	13	
		木 2	18	高								
				1 年	1	1		2				2
		火 4	6	高								
				1 年		5				2	5	2
D	経済と社会	火 4	14	高								
				1 年	1	1					1	
		金 1	6	高	2				1			
				1 年		5		2		2	2	
		水 2	12	高	1							
				1 年					1		1	
		火 5	3	高	1							
				1 年			9					
	法と政策	木 5	11	高	1		1					
				1 年			2			6		
		水 1	9	高	1							
				1 年		11				10	1	1
		火 3	23	高								
				1 年		12	9			2	2	4
		金 2	29	高								
				1 年	4	8	4	1			1	3
		火 4	22	高								

		木 3	8	1 年 高		1	2			2		2
		月 3	3	1 年 高						1		
				1 年 高			1	1				
E	数理の世界	木 2	8	1 年 高				7				
	現代技術と情報科学	金 4	59	1 年 高	1	6	1	8		35		7